

2010.3.15「夫婦別姓反対 選択ではなく引き受ける覚悟が必要！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

民主党が提案してきた国家解体の為の法案、外国人参政権と選択的夫婦別姓法案がいよいよ国会で議論されるようになってきました。しかしこの二つの法案は自民党政権時代に政府提出で検討されてきたものでもあります。私はこの二つの法案に以前から反対してきましたが、残念ながら自民党政権時代に議論がしっかりされていなかったのです。

外国人参政権につきましては既に党議決定で反対だとされていますが、夫婦別姓問題については様々な意見が出ています。自民党の中でも賛成、党議拘束を無くすべき、民主党の案に対抗して代替案を提示すべきという方もおられます。勿論、それぞれの議員が議論を行うことは結構ですが、私は夫婦別姓法案について今更代替案を示す必要は全く無いと思っています。

現在、通称名は殆どどの場で使うことが可能になっています。パスポート等では使えないという声もありますが、それを不便と感じるかどうかは個人の主観や状況によります。しかし総合的な視点でこの問題を考えると、通称名の拡大や夫婦別姓を認めることによって起こる社会の混乱は百害あって一利なしと思うのです。

私は選択的夫婦別姓という言葉に非常に違和感を覚えます。女性の方が結婚をして名前が変わるとというのが一番多いパターンだと思いますが、何故、女性だけが姓を選択できないのかということが問題なのでしょう。しかし、男性の場合もそうなのです。私の名字は西田ですが西田家に生まれる事を私が選択したわけではありませんし、私の家内は安田といいますが彼女も安田家に生まれてくるのを選択したわけではありません。もちろん、私、西田と結婚したことに関しては選択したことです。しかし、世の中の殆どことは選択できません。その選択できないものをいかに引き継ぐのか。そしてその連続を何代にもわたってしてきたからこそ、人の社会というものが成り立っている。そして家庭の本源とはそこに有ると思っています。

選択的夫婦別姓というのは見方によっては個人の自由をより認め、非常に便利で自由な気分させる言葉です。しかし、家族や人間の歴史はそのような利便性でなりたっておらず、理屈を超えてバトンを引き継ぎ渡していく。その繰り返しの中で、一見して不都合で便利ではなさそうに見えるものが社会全体の紐帯を守ることになっているのではないのでしょうか。

そのようなことを含めて我々は社会の慣習、伝統というものに対して光を当てて考えなければならないと思っています。この問題もまた議論させていただきます。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。